

# 日本



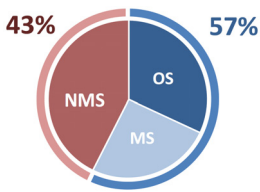
日本の平均的な PC ユーザー :

インストール済み プログラム  <b>63</b>  21 社の異なる ベンダー	これらのうち 44 %の プログラム  <b>63 のうち 28</b>  は Microsoft プログラム	これらのうち 56 %の プログラム  <b>63 のうち 35</b>  は Microsoft 以外の ベンダー	オペレーティング・ システムに パッチを適用していない ユーザー  <b>6.5%</b>  Win7、Win8、Win10 Windows Vista	パッチ未適用の Microsoft 以外の プログラム  <b>14.4%</b>  パッチ未適用の MSプログラム : 5.0 %	平均的な PC 上の サポート終了 プログラムの  <b>7.0%</b>  はベンダーによる パッチ配信が終了
--	--	---	--	---	---

## はじめに

このレポートは、2016 年第 4 四半期の Personal Software Inspector による精査で得られたデータに基づく、日本における PC ユーザー間でのセキュリティ状況を示しています。PC のセキュリティは、PC にインストールされているプログラムの数と種類と、これらのプログラムのパッチがどこまで適用されているかによって大きく左右されます。データは、Personal Software Inspector ユーザーの状況を反映しています。Personal Software Inspector ユーザーが他の PC ユーザーよりも安全な状況にあると考えて差し支えありません。

## 脆弱性の原因



### 脆弱性の原因

2016 年 1 月~2016 年 12 月

オペレーティング・システム Microsoft プログラム	32%
Microsoft 以外のプログラム	43%

サイバー犯罪者は、多くの個人ユーザーが、PC の定期的なセキュリティ・メンテナンスを厄介な作業と考えていると知っています。結果として、多くのユーザーの PC が、十分なパッチを適用しておらず、攻撃を受けやすい状態になっています。

一般的な PC の場合、脆弱性を修正するため、21 種類の異なる更新メカニズムを把握して、63 個のプログラムにパッチを適用する必要があります。

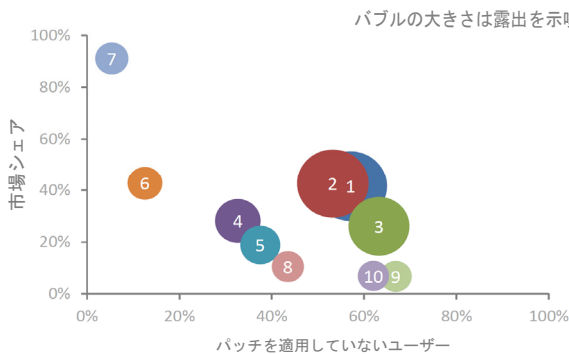
- PC 上のプログラムの 44 %に当たる 28 個の Microsoft プログラム用のものは、単一の更新メカニズム 1 種類。
- その他 20 種類の異なる更新メカニズムは、残りの、PC 上に製品が存在する Microsoft 以外のベンダー 20 社のプログラム(56 %) 35 個にパッチを適用するためのもの。各ベンダーは、独自の更新メカニズムを用意。

## 最も危ういプログラムのトップ 10

リスクへの露出に基づき、危ういプログラムのトップ 10 を順位付けしました。順位は 2 つのパラメータ、すなわち市場シェアの割合に、パッチが適用されていない割合を乗じた値を基に決定されています。

つまり、どの程度プログラムが広まっているかという要素に、たとえパッチが公開されていたとしても、どの程度のユーザーがパッチの適用を行っていないかという要素を組み合わせています。

一番右のリストは、直近の 4 四半期 (2016 年 1 月~2016 年 12 月) に各プログラムで検出された脆弱性の件数を示しています。



プログラム	パッチ未適用	市場シェア	脆弱性
1 Apple iTunes 12.x	57%	42%	29
2 Oracle Java JRE 1.8.x/8.x	53%	43%	39
3 Lhaplus 1.x	63%	26%	0
4 Adobe Reader XI 11.x	33%	28%	227
5 VLC Media Player 2.x	38%	19%	5
6 Adobe Acrobat Reader DC 15.x	13%	43%	227
7 Microsoft Internet Explorer 11.x	5%	91%	106
8 Line 4.x	44%	11%	1
9 Oracle Java JDK 1.8.x/8.x	67%	7%	39
10 Google Picasa 3.x	62%	7%	0

「脆弱性」は、直近の 4 四半期の新しい脆弱性の件数を示します。「市場シェア」は、PC にプログラムをインストールしている Personal Software Inspector ユーザーの割合です。

## このことが意味する状況

PC 上の脆弱なプログラムにパッチが適用されないままになっていると、ハッカーによる侵害を受けやすくなります。つまり、26%の市場シェアを持つ Lhaplus 1.x が動作している PC の 63% がパッチを適用していないとすると、すべての PC の 16% がプログラムが原因で脆弱になっています。同一の PC に、パッチが適用されていない脆弱な複数の別のプログラムがインストールされている場合もあります。

## サポート終了(EOL)プログラムのトップ 10

サポート終了(EOL)プログラムは、ベンダーによってそれ以上の開発もサポートも行われません。また、セキュリティ更新プログラムも配信されません。そのため、サポート終了プログラムは安全でないみなされます。サポート終了プログラムを特定して削除しておけば、PC ははるかに安全になります。

#	プログラム	市場シェア	#	プログラム	市場シェア
1	Adobe Flash Player 23.x	80%	6	Google Chrome 53.x	21%
2	Microsoft SQL Server 2005 Compact Edition	52%	7	Mozilla Firefox 49.x	18%
3	Microsoft XML Core Services (MSXML) 4.x	52%	8	Oracle Java JRE 1.7.x/7.x	15%
4	Google Chrome 54.x	43%	9	7-zip 9.x	15%
5	Apple QuickTime 7.x	29%	10	Oracle Java JRE 1.6.x/6.x	13%

### 免責事項

この国別レポートのデータは、2016 年 12 月 1 日に取得されたスナップショット・データです。Secunia 勧告は継続的に更新して新しい情報を提供しているため、取得されたスナップショット・データが別の時点のデータとは異なる可能性があります。2 個の異なるプログラムが 1 つの共有コードベースを持つ可能性があり、そのため脆弱性も共有される可能性があります。同一の脆弱性が 2 個の異なるプログラムで現れるようになります。そのため、製品をグループ化すると、同一の脆弱性が 2 回カウントされる可能性があります。プログラムや OS に対してパッチを適用していないユーザーの割合は、パッチのリリース直後が最も高くなります  
Personal Software Inspector: <http://flexerasoftware.com/svm/personal>

### 注記 詳細